

会 議 録

会議の名称	平成30年度第1回上尾市図書館協議会	
開催日時	平成30年8月6日(火) 午後1時30分から3時10分まで	
開催場所	上尾市図書館 集会室	
議長(委員長)氏名	村田文生	
出席者(委員)氏名	小板橋 英雄・近藤 博昭・城所 典子・小山 隆行・加藤 寛子・ 若松 昭子・岸 清俊・星野 賢・森田 直樹	
欠席者(委員)氏名	藤波 貢・市河利之	
事務局(庶務担当)	池野教育長、小林教育総務部長・関図書館長・島田図書館次長・小森主幹・ 石川副主幹・中島主査・内山主査・重田主任・朝見主事	
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果
	(1) 議事 ①新図書館複合施設について ②平成29年度上尾市図書館事業報告について ③平成30年度上尾市図書館事業概要について ④その他	(1)議事 別紙「議事の経過」のとおり
議 事 の 経 過	別紙のとおり	傍聴者数 0 名
会 議 資 料	(冊子) 図書館要覧 平成30年度 (資料) 資料1、資料2-1、2-2	
<p>議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。</p> <p>平成 年 月 日</p> <p style="text-align: right;">平成30年9月25日署名済み</p> <p style="text-align: center;">議長(委員長)の署名 _____</p>		

議事の経過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
村田議長	(議事開始) ①新図書館複合施設について事務局に説明を求める。
事務局 石川	【新図書館複合施設について】資料 1 新図書館複合施設整備事業の今後の方針について説明は次のとおり。 ・ 検討の結果、現在の計画を見直す ・ 本館機能は、上町にある本館のまま ・ 上平地区の土地には、図書館分館機能を含む複合施設を整備する方向で検討
関館長	新図書館複合施設の見直しの経緯と今後についての報告は次のとおり。 ・ 6月議会の一般質問の中で市長から新図書館複合施設の見直しについて答弁 ・ 議会終了後、関係者に対して説明を行い、本日はその一環 ・ 今後、本館・分館の在り方については、広く検討
村田議長	委員に意見を求める。
近藤委員	新図書館建設の根本的な理由は、本館機能が充分でないため、市民サービス、社会教育の一端を担うことができなくなったからではないか。 図書館は知識の財産であるので、新しい構想を楽しみにしている。
加藤副議長	本館構想そのものがなくなってしまうのは悲しい。より良い市民サービスを提供できるように、前向きにさらに良いものができるといい。
城所委員	他市の図書館と比べたら、上尾市は、なにも変化がなく非常に残念。本館構想を練って、子供が楽しんで活用できるようにしてほしい。
若松委員	資料1の文章にある、分館機能を含む新たな複合施設を整備する方向で検討とあるが、具体的な計画は全くないのか。
関館長	新複合施設には、図書館分館として位置付けたいと考えている。 今の段階では、何の機能が入るか決まっておらず、再度設計を行わなければならない。
岸委員	図書館機能を充実させることは重要と考える。早急に新しいシステムを考えていただきたい。

事務局 小森	<p>②平成29年度・平成30年度の事業報告について事務局に説明を求める。</p> <p>【平成29年度事業報告】資料 図書館要覧 平成30年度</p> <p>本館・分館における図書館の事業実施状況についての報告は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはなし会（P23） ・ブックスタート事業 1,531人に絵本と手提げ袋を配布（P23） ・セカンドブックスタート事業 1,826人に読書パスポートを配布（P23） ・図書館まつり 7事業を実施（P23～24） ・夏休み事業、クリスマス会、図書リサイクル、映画会（P24）
事務局 中島	<p>読書活動支援センターの事業実施状況についての報告は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座 10講座で368人が参加（P25～P26） ・おはなし会 670人が参加（P27） ・学校・授業支援 3,218人に支援（P28） ・読み聞かせボランティアの支援 72人に絵本の読み方等の指導（P28） ・家庭への読書相談・支援 342人に読書相談、情報を提供（P28）
事務局 小森	<p>【統計報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館資料数 589,614点（P29） ・利用登録者数 125,080人（P31） ・施設別利用状況（P32） <p>利用者数 393,910人 貸出点数 1217,427点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者サービス <p>対面朗読、貸出点数、宅配サービスの利用者登録が増加（P36）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインデータベース利用実績（P37） <p>【平成30年度上尾市図書館事業概要について】資料 2-1</p> <p>本館・分館における図書館の事業実施予定についての説明は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館まつりについて 資料2-1 <p>平成30年度は、10月7日～11月10日に行う予定</p> <p>市制施行60年に伴い、今年度は、記念事業藪内正幸原画展を開催予定</p> <p>文学講演会「新撰組」についての講演会も予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート事業 昨年と同様に実施 ・セカンドブックスタート事業 <p>平成30年度は、小学校1年生を対象に1,825人に読書パスポートを配布</p>
事務局 中島	<p>子どもの読書活動支援センターの事業についての説明は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概要 <p>平成24年7月に富士見小学校内に開設。「読み聞かせのまち あげお」の実現に向け、家庭・地域・学校・図書館の連携を推進する役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施予定 <p>主な事業、5事業を実施予定（資料2-2）</p>

村田議長	委員に質問を求める。
岸委員	<p>P30で資料総数が減少している。</p> <p>リサイクル等の影響もあると思うが、資料総数の推移のデータだけでは、例えば平成29年度の受入数はどうだったか等の実際の動きが見えない。</p> <p>年度の受入冊数など動きがみえるデータも記載すると良いと思う。</p>
事務局 小森	<p>資料総数の減少については、NDC8版からNDC10版の移行に伴う、除籍数の増加が資料総数減少の一因と考える。</p> <p>今後は、総数だけではなく、実際の動きが見えるよう検討したい。</p>
近藤委員	<p>このような年間報告では数字が多い。数字の裏にある背景を、分析していただいて、「前年このようなことがあってこのようなデータになった」という形で、背景と分析をまとめるのは、大切な作業だと思う。</p> <p>ここはというポイントだけでも教えていただきたいので、御検討をお願いします。</p>
島田次長	<p>分析も踏まえて明確に説明できるように進めていきます。</p> <p>現在、データを詳しく分析する時期だと認識しておりますので、結果だけでなく、今後の方針根拠となる数字も含めて検討していきます。</p>
村田議長	<p>以前、委員から御指摘のあるように、活字離れに対し、図書館として、どのような対応をしていくのか。</p> <p>私としては、読み聞かせや児童サービスのように、子供の頃から、本に接する機会を増やすのが有効だと考えている。上尾市では、特に子どもの読書活動支援センターの事業が1つの対応策かと考える。</p>
星野委員	<p>ベースにあるのは家庭であり、親が子供と接するときに活字が介在するかが重要。今の若い世代の家庭の在り方は、今までと異なるイメージの中で子供が育っている。</p> <p>スマホ・ネットでも活字に触れてはいるので、活字離れという言葉が妥当か分からないが、自分の立場では危惧している。</p> <p>スマホ・ネットも便利なものであるが、紙媒体が子供に対してできること、社会の現状も踏まえながら、活字離れに対して見合った図書館の存在価値をどうしていくかを検討することは必要と考える。</p>
加藤副議長	<p>上尾市図書館のセカンドブックスタート事業が活字離れに貢献していると、児童文庫の活動の中で実感している。読書パスポートにあるスタンプラリーが目的で、本を読むことが目的ではなくても、結果的に子供たちが本に触れる機会となっている。</p>

島田次長	<p>ブックスタートは、かなりの地域で行われているが、上尾市のようにセカンドブックスタートの取組がある市町村は少ない。市外での活動中に、他市の仲間から、上尾市のセカンドブックスタートについて問われると鼻が高くなる。ささやかではあるが、市全体に行き渡っている有力な方法だと思う。</p> <p>セカンドブックスタート事業の補足として、新小学校1年生に対し、読書パスポートを配布している。読書パスポートには、図書館事業に参加するとスタンプを押してもらえるスタンプラリーや読書記録を記入し、300冊達成すると賞状がもらえるような仕組みになっている。これを活用し、様々な事業を展開している。また各小学校と連携して年度末にコンクールを開催し、表彰している。子供たちが本を身近に感じ、親しむための一躍を担っている。各市町村でも珍しい事業である。</p>
若松委員	<p>利用登録者数は増えているが、利用者数・貸出件数が減っているのはなぜか。</p>
島田次長	<p>利用登録者数は累積値であり、転出者や亡くなられた方も含まれているので、実際はこの値より少ない。他市では何年利用がないと登録を削除するなどの取組もある。私どもも、課題としてとらえているので、検討していきたい。</p>
若松委員	<p>人口推移と利用者数・貸出件数の関係はどうか。</p>
島田次長	<p>人口推移は微増しているが、利用者数・貸出件数は減少している。市も特化して取り組んでいるが、相対的に7～12歳利用者が減少、特に中学生～高校生～大学生の年代層が激減している。その一方で、70歳代以上の増加が目立っている。これが図書館の抱える現状である。</p> <p>今後は、ICTの発達とともに活字離れが進んでいくものと見られ、電子図書なども重要なものになっていくと考えられる。上尾市独自の検証・対策が必要だと考えている。</p>
若松委員	<p>7～12歳、中学生～高校生～大学生の世代の利用者が減るのは全国的な傾向です。特に中学校・高校・大学は学校図書館があり、公共図書館に来るこの世代の子供はそれ以外のものを求めている。</p> <p>幼少期から小学校までの積極的な読書活動支援以外にも、中学・高校と連携を取って公共図書館を活用するような企画をされると良いと思う。</p>
岸委員	<p>利用者数とは具体的にはどのような値か。</p>
島田次長	<p>CD・DVDを含めた貸出件数である。</p>

岸委員	<p>新聞や雑誌、郷土資料の閲覧者、また複写機の利用者というのも図書館の利用者だと思うが、これらを利用するのは含まれていないのか。</p> <p>貸出件数を利用者数とするのか。</p> <p>実際には学習する人もいる。実態を把握するのに、入館者数という考えもある。</p>
島田次長	<p>入館者数は、本館、大石分館、駅前分館でカウントが可能であり、新聞、学習スペース等で利用する人も含めた、実際に図書館を利用している数として、入館者数は把握しているが、本館では年間45万人から現在は40万人強と、かなり減少している。</p>
村田議長	<p>移動図書館廃止によって高齢者サービスの在り方はどうか。</p>
関館長	<p>上尾市は、面積に対して図書館のサービスポイントが多い市町村である。移動図書館の廃止によって、サービスが低下したということはないと御理解いただきたい。</p>
小山委員	<p>生徒や学生の多くが図書館を学習スペースとして利用しているが、席が少ない。要望として、学習スペースを増やしてほしい。学習スペースをもっと設けて頂くと利用者が増えるのではと考える。また高齢者の方も新聞を読んだり、コミュニケーションの場として多く活用しているので、高齢者に席を譲れるシステムもあるといい。</p> <p>電子書籍の導入することで、幅広い利用者層の獲得につながると考える。</p>
森田委員	<p>中学生が激減するのは当然。今の学生には本を読む時間はない。</p> <p>学生は、静かで、快適な学習の場として、図書館を利用している。学生のニーズに応えながら、図書に興味を持たせるような工夫が必要だと考える。</p> <p>現状、上尾市図書館には、それは感じられない。</p> <p>上尾市ではICTを推進しているので、さらに図書館離れが考えられる。</p>
星野委員	<p>スマホ・ネットの活用で文章の理解力は付くのか。</p>
森田委員	<p>付かない。リーディングスキルが低下しているのが現状である。</p>
村田議長	<p>以上で、報告についての質疑は終了し、その他の案件についてお願いしたい。</p> <p>事務局側の報告は次のとおり。</p>
事務局 小森 島田次長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の協議会は、11月に予定。日程が確定次第、御案内する。 ・ 夏休み期間中、大石分館に隣接する消防の会議室を、学習スペースとして開放している。

村田議長	新図書館に関して動きがあった場合、どういった対処を行うか。
関館長	状況に応じて対応する。
加藤副議長	以上をもって、会議を終了とする。